

クロマグロ仔魚の鰾開腔可能期間と浮上死に及ぼすスキミングの影響

倉田道雄¹・澤田好史²

(人工種苗グループ)

¹近畿大学水産養殖種苗センター,

²近畿大学水産研究所

送風式スキマーを用いて鰾の開腔可能期間を求めるとともに、スキミングが浮上死に与える影響を調べた。

スキミングの開始時期を1日ずつ遅らせた4試験区(3日令区, 4日令区, 5日令区, 6日令区)を設けて2日令から8日令まで飼育したところ, 3日令区における開腔率が80.2%で最も高く, 他の区では2.7~11.9%と低かった。また, 浮上死による斃死個体数は3日令区で379尾であり, 他の区の45~59尾よりも多かったが, 総斃死率に占める

割合は各区とも約10%以下で低かった。なお, 仔魚の成長にはスキミングの開始時期の違いに基づくと思われる区間差はなかった。

これらの結果から, クロマグロ仔魚の鰾開腔可能期間はほぼ1日しかなく, この時期を逸したスキミングは鰾の開腔にほとんど効果がないことが明らかになった。また, スキミングは浮上死を誘発するが, クロマグロの初期減耗に与えるインパクトは小さいと思われる。